



## 大谷正夫さんを偲んで

### 大谷正夫さんを偲んで

中川雄一郎（協同総合研究所理事長）

私にとってあまりの急逝であった。今年の1月26日に青山学院大学6号館で協同組合学会主催のシンポジウム（『協同組合の促進』に関するILO新勧告案をめぐる』）の会場で大谷さんが質問と解説の双方をしてくださったのに、と今は呆然と思うばかりです。最近では、大谷さんとは2ヶ月に1度協同総研の理事会でお会いする程でしたので、大谷さんがそのような大病を再び患っていたとは予想だにしませんでした。本当に残念でなりません。

大谷さんには個人的に大変お世話になりました。特に、1998年10月に明治大学国際交流センターがイギリスからジョンストン・バーチャル氏を招聘した機会を利用して、生協総合研究所とロバート・オウエン協会で講演することになりましたが、この時に結局、大谷さんに通訳をお願いすることになり、私はもちろん、バーチャル氏も大変助かりました。大谷さんの国際協同組合に関する情報と知識は並大抵のものではなかったからです。それだけでなく、大谷さんは、多忙の中に暇を見つけてくださって、当時、国立市にあった明治大学のゲストハウスにバーチャル夫妻を訪ねてくださいました。その日のゲストハ

ウスが話と笑いに包まれたのも、海外でならした大谷さんのセンスとジョークのお蔭でした。バーチャル夫妻が日本を去る時に、再び日本に来る機会があれば大谷さんとの交流をまた楽しみたい、と私に語ったのが印象的でした。それから2年後、バーチャル氏は再び東京で大谷さんとお会いすることができました。旧交を温められたことは言うまでもありません。

そのバーチャル氏がまた日本にやって来るとのこと。彼は、おそらく、大谷さんとの再会と旧交とを楽しみにしているに違いないと思う。そう思うと、大谷さんが亡くなったことを彼に告げなければならないのは、私には何よりも辛いことです。ですから、未だに私からは、「大谷さんと永久に再会できないこと」を彼に告げることができずにいます。大谷さん、申し訳ありませんがもう少し時間をください。

人の死のなんと呆気ないことか。残された人たちの何と虚しいことか。それでも私たちは、大谷さんが残してくださった多くのことを引き継ぎ、前を向いて歩いていかなければなりません。その道は大谷さんが歩こうとしてきた道に違いないとの思いを込めて（合掌）